

「普通」って何ですか

吉賀町立吉賀中学校 二年 矢野菜乃心

「普通」って何でしょうか。

私は、皆と同じじゃなくちゃ、みんなと違わないようにと意見をあわせることがよくありました。私は、皆と違うということは「普通」ではないと感じ、嫌でした。みんなとは違うことをしている人を理解することができず、「普通」とは違う人を変な人とひと括りにし、一緒にいる友達と自分の気持ちを共有しようとコソコソ話したり、冷たい目で追ったりしていました。

しかし、私が小学六年生の時に母が腰椎の手術をし、その後遺症により左足の麻痺で今まで通りに歩くのが難しくなっていました。そのため母は、松葉杖や車椅子を使うようになりました。そのため、母と一緒に出かける時は、周りの人からジロジロ見られることも多く、指をさしてくる人や、同情の目を向けてくる人もいました。「松葉杖を使って歩いているだけなのに、なんでお母さんのことを物珍しく見るのだろう」と思いました。周りからいちいち反応されることは恥ずかしく、私は苛立ってもいました。そんなある日、私のそんな気持ちに気付いたのか母は、「ごめんね」と謝りました。母は悪くないと分かっているのに、心のどこかで母を責めてしまっている自分がいました。私は「ごめんね」という言葉に何も返すことが出来ませんでした。それから徐々に私は周りの反応が嫌になり、母と一緒に出かけることも少なくなっていきました。母も出かける回数が減っていきました。

私の心には暗くて重いものがずっと残っていました。「私達は普通に出かけているだけなのに、みんななんであんなに見るんだろう。」「しょうがないかなあ。」「でも普通に買い物しとるだけじゃん。しょうがないじゃん。」「普通じゃないって目立つのかな。」と思ったとき、なんかもやもやするものに気づきました。「目立っている私達は普通じゃないの？」心の中に複雑な言葉がぐるぐる回っていました。

しばらく考えて「あっ」と思いました。今まで私が「普通」とは違う人であると、「変な人」として一括りにしてきた人に向けていた目は、今私が嫌だと思っている目だと思いました。自分が嫌だと思っている目を、人に向けている私に気づきました。私の視線がどれだけ相手を傷つけてきたのかと、初めて考えました。

「普通」ってなんでしょうか。私の「普通」と違うからといって、変な人だというのはとても乱暴な考え方です。「普通」は人によって違っていいのだと思います。自分の「普通」とは違うということは、悪いことでも、恥ずかしいことでもない、ということに気づくことが出来ました。そして、私自身も皆と違っていいのだと思えるようになりました。心のもやもやが晴れていくにつれ、以前のように母と楽しく出かけることができるようになりました。

皆が言う「普通」とは、人それぞれが思う当たり前であり、皆がもつ「普通」は同じではありません。私は私の「普通」を変な目で見られたくはありません。だから、私はまず誰か

の「普通」を否定せず尊重できるようになりたい、そう思いました。

そう思っていた先日、でかけた先で急に周りがざわざわし始めました。「気持ち悪い」そんな声まで聞こえてきました。周りの人の目は、とても目立つ個性的な服装をしている人に向けられていました。私が嫌だと思ったあの目です。

でもこのとき私は、その人の服装が変だとも、なんとも思いませんでした。「普通」じゃないものを見るような、周りの目のほうに違和感を感じていました。「ああ、私はちょっと変わってるのかも。」そんなふうに思いました。自分の「普通」とは、異なる「普通」を持つ人を尊重する、そういう一歩が踏み出せたのかもしれないと思いました。私は自分の「普通」と違う「普通」を持っている人の心を踏みにじらない人になりたいです。まだ自分の感覚を確認しながら恐る恐る踏み出している最中ですが、私はいつか、この考えを、そして感覚を、周りに広げていけるような人になりたいです。